

## <報道発表資料>

.....  
カテゴリー：募集

令和4年6月28日

### サクラの外来害虫“クビアカツヤカミキリ”被害を発見してください！ —5回目の「クビアカウオッチャーズ」大募集—

環境科学国際センターでは、サクラの外来害虫“クビアカツヤカミキリ”の県内における被害状況を調査するため、「クビアカウオッチャーズ」を募集し、今回で5回目となる「クビアカツヤカミキリ発見大調査 2022」を実施します。

クビアカツヤカミキリによる被害箇所数の増加は、被害発生市町での防除施策の効果もあり抑えられつつありますが、被害地域は、調査を開始した平成30年度から一貫して拡大し続けています。今後は、被害発生地域で防除を実施するだけでなく、その周辺の被害未発生地域で新たに発生する被害の防除が急務と考えられます。

これまで多くの県民や団体の皆様に御協力いただきましたが、今後も防除対策を効果的に推進し、被害の拡大を抑制するためには、皆様から寄せられる被害情報がまだまだ必要です。

埼玉のサクラを守るため、ぜひ皆様の御協力をお願いします。

#### <クビアカツヤカミキリ発見大調査 2022>

##### 1 目的

県内におけるクビアカツヤカミキリの被害状況を把握し、被害対策に活用します。

##### 2 調査参加者(クビアカウオッチャーズ)

県内在住・在勤・在学の方であれば、どなたでも御参加いただけます。

##### 3 調査方法(詳細は「クビアカツヤカミキリ発見大調査マニュアル 2022」を参照)

###### (1) 調査場所・樹種

県内の公園や河川敷、学校などに植栽されているサクラを主な調査対象とします。特に河川沿いのサクラ並木は、被害拡大に関与している可能性が高いため、注意して見てください。

なお、ウメ、モモ、スモモなどのバラ科樹木に関する被害情報も受け付けます。

## (2) 確認方法

クビアカツヤカミキリの成虫(図1)や、排出されたフラス(図2、木くずと糞が混ざったもの)を確認します。



図1 クビアカツヤカミキリ(オス)



図2 フラス(褐色のカリントウ状で比較的に硬い)

## (3) 報告方法

確認した情報を電子メールや郵送などで環境科学国際センターに報告してください。また、成虫やフラスを見つけた場合は、市町村や管理者へ報告していただいても結構です。情報は環境科学国際センターと共有されます。

## 4 調査期間

集中調査期間は、令和4年8月31日(水)までです。

なお、集中調査期間外の情報提供も随時受け付けます。

## 5 クビアカツヤカミキリの特徴

- 自然分布は、中国、モンゴル、朝鮮半島、ベトナムなどです。
- 成虫の体長は 25-40mm 程度で、前胸背板(一般に「首」に見える部分)が鮮やかな赤色、他の部分が光沢のある黒色です。
- 成虫は、昼間によく活動し、柑橘系のおおいを発します。
- メスの成虫は木の樹皮の割れ目に産卵し、1000 個近く産むこともあることから、繁殖力が極めて旺盛です。
- 幼虫は、サクラ、ウメ、モモ、スモモなどの主にバラ科樹木の生木を好んで摂食します。

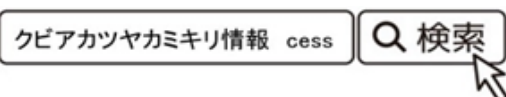
- ・幼虫は木の内部で2～3年かけて成長し蛹(さなぎ)となり、6月中旬から8月上旬に成虫となって、木の外に脱出します。
- ・幼虫の活動期は春から秋で、この間にフラス(木くずと糞が混ざったもの)を排出します。
- ・成虫の寿命は、野外では1か月程度です。

## 6 その他

- ・クビアカツヤカミキリは、外来生物法により、特に生態系などへの被害が認められる「特定外来生物」に指定され、飼育や運搬などは禁じられています。
- ・成虫を見つけた場合は、被害拡大を防ぐため、逃さず、その場で捕殺するようお願いいたします。なお、成虫が人を刺すことはなく、人体への危険はありません。
- ・調査を行う際、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3密を避けるようお願いいたします。

調査に関する詳細は、以下の「クビアカツヤカミキリ情報」サイトを御覧ください。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/kubiaka.html>



## <参考>

### ○ これまでの県内におけるクビアカツヤカミキリ被害の変遷

平成25年度	・埼玉県南部の草加市と八潮市で、県内で初めてクビアカツヤカミキリの被害報告(3か所)。
平成26年度	・八潮市で新たな被害報告(3か所)。
平成27～28年度	・被害報告なし。
平成29年度	・県北部の羽生市、熊谷市、行田市、深谷市及び加須市、県南部の越谷市で、新たに被害報告(18か所)。 ・草加市と八潮市を合わせて県内8市24か所で被害確認。
平成30年度	・「クビアカツヤカミキリ発見大調査2018」を実施。 ・平成29年度と同様の8市から128か所の被害報告。
令和元年度	・「クビアカツヤカミキリ発見大調査2019」を実施。 ・平成30年度に被害が確認された8市に、新たに3市1町を加え、計12市町の206か所から被害報告。
令和2年度	・「クビアカツヤカミキリ発見大調査2020」を実施。 ・令和元年度に被害が確認された12市町に、新たに3市1町を加え、計16市町の431か所から被害報告。



○ 写真



サクラの根元に堆積したフラス



樹体から排出されるフラス